

Coinhiveってなに？

- 専用のJavaScriptコードをWebサイトに埋め込んで、閲覧者のPCのCPUパワーを活用し、仮想通貨のマイニングを行う仕組み。広告収入の代わりになるものとされている。
- サイト閲覧者の了解を得ずにCoinhiveを設置した所、不正指令電磁的記録保管罪に問われた。一審では無罪であったが、検察が控訴し東京高裁の二審では有罪となり罰金10万円が言い渡された。Coinhiveがコンピューターウイルスであるかどうかは裁判の争点になった。

裁判の争点

- Coinhiveが不正指令電磁的記録（いわゆるウイルス）の要件である「反意図性」と「不正性」をみたすかどうかについて争われた。
- 「反意図性」：サイト閲覧者の意図に反してプログラムが実行されたか
- 「不正性」：プログラムによる指令が不正に当たるか
- 一審では反意図性は認められたが、不正性は認められなかった。二審ではその両方が認められ有罪となった。

問題点

- 「反意図性」と「不正性」の判断が曖昧であるため、プログラムを書く人々の萎縮を招く可能性がある。（横浜地方裁判所は、事前の注意喚起や警告がない中、いきなり刑事罰に問うのは行き過ぎの感を免れないと指摘）
- 今後の日本のIT技術発展を萎縮させないためにも、どこからがコンピューターウイルスであるかを確実に定義するべきではないか。